

35	都市整備局	木造住宅密集地域の整備促進 (燃えない・燃え広がらないまちの実現)
事業概要	<p>木造住宅密集地域を燃えない・燃え広がらないまちにするため、「防災都市づくり推進計画」(平成28年改定。以下「推進計画」という)に基づき、延焼遮断帯の形成に加え、延焼遮断帯に囲まれた市街地の不燃化・耐震化、円滑な消火・救援活動や避難を可能とする防災生活道路や公園の整備など、防災・居住環境の整備を総合的に行うことによって、市街地の防災性を確保するとともに良好な住環境の形成を目指す。</p>	
これまでの経過	<p>○阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、推進計画を平成8年に策定</p> <p>○木造住宅密集地域の改善を一段と加速させるため、「木密地域不燃化10年プロジェクト」を平成24年に立ち上げ、不燃化を推進する不燃化特区と特定整備路線の整備を一体的に実施</p> <p>○最新の地域危険度等の調査結果やこれまでの取組の成果や課題に加え、新たな視点も踏まえた効果的な施策を展開するため、令和2年3月に「防災都市づくり推進計画」基本方針を改定</p> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に甚大な被害が想定される整備地域を対象に、10年間の重点的・集中的な取組として実施してきた、不燃化特区制度の活用や特定整備路線の整備について、取組を5年間延長し、引き続き、整備地域の不燃化を強力に推進 ・木造住宅密集地域においては、敷地の細分化防止や建築物の不燃化を図っていくとともに、農地を有し、将来の宅地化も想定される地域について、必要に応じ、防災性の維持・向上を図り、安全で良好な住環境を形成 ・木造住宅密集地域等の改善に併せて、地域の特性に応じた創意工夫による魅力的な街並みの住宅市街地への再生を促進 <p>1 木造住宅密集地域整備事業 木密地域において、生活道路の整備、公園・広場の整備、防災街区整備事業等を行う区への助成を行い、防災性の向上と居住環境の整備を総合的に行う。</p> <p>2 都市防災不燃化促進事業 耐火建築物等へ建替える際の建築費の一部の助成等を行う区への補助を通して建築物の不燃化を推進し、延焼遮断帯の形成や安全な避難場所・避難路の確保を図る。</p> <p>3 木密地域不燃化10年プロジェクト</p> <p>(1) 不燃化特区の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備地域の中で、特に重点的・集中的に改善を図る地区を、区の申請に基づき「不燃化特区」として19区の53地区を指定し、老朽建築物の建替え・除却等に要する費用の一部に助成を行う区に対し、都が費用の1/2を助成 ・戸別訪問や専門家派遣による住民が抱える課題の把握・解決を図るほか、区と共催で不燃化セミナーを開催し、地元住民の機運醸成を促進 ・老朽建物を除却した土地や建替えた住宅にかかる固定資産税等を最大5年間減免 <p>(2) 特定整備路線の整備※ 整備地域において、「特定整備路線」(全28区間、約25km)を事業中。うち、商店街を有する地区等において沿道まちづくりと併せて道路整備を推進(都市整備局5区間)</p>	

